

金子みすゞ 童謡詩人。西条八十から絶賛されて次々創作するも、夫の反対で絶筆、離婚し自殺した。近年再評価。

かねこみすゞ

日比谷公園・1903 = 山口県大津郡仙崎村で、金子庄之助の長女に生まれる。母はミチ。本名テル。
2つ上に兄がおり、

日露戦争終・1905 = 2歳：弟が誕生。父が母の妹の夫上山松蔵が下関で経営する上山文英堂書店の清国管口支店長となって渡清も、

満鉄発足・・1906 = 3歳：父が客死。その後も、母が仙崎支店という形で、書店を経営、

韓国反日暴動1907 = 4歳：弟が上山松蔵の養子となり、下関へ。

韓国併合・・1910 = 7歳：瀬戸崎尋常小学校に入学。

明治天皇没・1912 = **9歳**：

民本主義・・1916 = 13歳：郡立大津高等女学校に入学。_校友誌に詩「ゆき」を発表。

ロシア革命・1917 = 14歳：続けて、「我が家の庭」を発表。

第一次大戦終1918 = 15歳：続けて、「さみだれ」を発表。母の妹が死去し、

ペルシヤ条約・1919 = 16歳：続けて、「社会見学の記」を発表。母が上山松蔵と再婚し、下関へ。

大暴落・・・1920 = 17歳：郡立大津高等女学校卒業、式で答辞を読む。

原敬首相暗殺1921 = **18歳**：義父上山松蔵が倒れ、看病。弟が作曲始めると、北原白秋の詩の作曲を依頼。

水平社結成・1922 = 19歳：尋常小学校で同級だった女性が兄と結婚。

関東大震災・1923 = 20歳：下関の母のもとに移り、西之端町商品館内の*上山文英堂書店で働き始めると、みすゞ名で{童話}{婦人倶楽部}{金の星}などに童謡を投稿し始め、西条八十に'英国のロゼッティ女史の再来'と称される。

治安維持法・1925 = 22歳：同人会{曇珠沙華}に参加し、自選集「琅玕集」を始める。

円本時代始・1926 = 23歳：弟に諫められるも、同書店で働く宮本啓喜と結婚。長女を出産。*{童話}で「露」が第一席。{日本童謡集}に「大漁」「お魚」の2編が載る。第一童謡集「美しい町」・第二童謡集「空のかあさま」完成。

金融恐慌・・1927 = 24歳：西条八十に会う。祖母が死去。発病し、病臥。

共産党事件・1928 = 25歳：*{燭台}に「日の光」、{愛諦}に「七夕のころ」を発表するが、夫に反対されて筆を絶ち、以後の発表は無く、

世界恐慌・・1929 = 26歳：_遺稿集を作成。娘の言葉を採集する「南京玉」を書き始める。

海軍軍縮条約1930 = **27歳**：夫と別居し、離婚。娘を母に託し、写真館で最後の写真を撮り、上山文英堂書店内で服毒自殺した。没後半世紀ぶりにみすゞの全作品512編が発見され、「金子みすゞ全集」全3巻(59年)が出版され、日本児童文学会特別賞を受賞した。童謡絵本「ほしとたんぼぼ」(60年)もある。